

川崎医科大学 耳鼻咽喉科専門研修プログラム

【プログラムの目的】

耳鼻咽喉・頭頸部外科領域の疾患は小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象で、外科的治療のみならず内科的治療も必要とし、幅広い知識と医療技能の習得が求められています。川崎医科大学耳鼻咽喉科専門研修プログラム((以下、川崎医大耳鼻科 PG) では、医療の進歩に応じた知識・医療技能を持つ耳鼻咽喉科頭頸部外科専門医を養成し、医療の質の向上と地域医療に貢献することを目的としています。また、診療技能のみならず、学会発表や論文作成を通じ、科学者としての能力を販得することも目標としています。

【連携施設と指導医、専門領域】

専門研修基幹施設：川崎医科大学附属病院

プログラム統括責任者：	原 浩貴	主任教授・診療部長(喉頭・音声・睡眠外科)
指導管理責任者	： 原 浩貴	主任教授・診療部長(喉頭・音声・睡眠外科)
指導医	： 假谷 伸	教授・診療部長(耳科・鼻科)
	小森 正博	教授・診療部長(耳科・鼻科・小児睡眠時無呼吸)
	福田 裕次郎	准教授・副部長(頭頸部外科)
	兵 行義	臨床講師・特任医長(アレルギー)
専門医	： 前田 祐一郎	大学院生・チーフレジデント(耳鼻科一般)
	横山 彩佳	臨床助教・キャリア支援レジデント(耳鼻科一般)
	斉藤 沖真	大学院生・シニアレジデント(頭頸部腫瘍)
	藤田 尚晃	大学院生・シニアレジデント(耳科)
	鹿毛 千聡	臨床助教・シニアレジデント(耳鼻科一般)

県内外から多くの紹介があり、豊富な手術症例・外来症例・救急症例など多彩な症例が集まってきます。そのため耳鼻咽喉・頭頸部外科領域全般の疾患を広く深く経験できます。専門性の高い医療をそれぞれの領域の指導医からきめ細かく学ぶことができ、質の高い研修が行えます。

専門研修連携施設：川崎医科大学総合医療センター

指導管理責任者：	檜垣 貴哉	准教授・副部長(鼻科・アレルギー)
指導医	： 濱本 真一	講師・医長(耳科・鼻科)

若林 時生 特任副医長（耳鼻科一般）

岡山市の中心部に位置し、大学の分院として県内から紹介あります。岡山市の中核病院としてプライマリー疾患、救急疾患、手術症例（鼻科手術が中心）を経験できます。指導医・専門医の下で、耳鼻咽喉科専攻医として必要な基本手技や治療を多く経験することができます。

専門研修連携施設：赤穂中央病院

指導管理責任者：大河内 喜久 診療部長（耳科・鼻科・頭頸部外科）

兵庫県赤穂市に位置し。西播磨二次医療圏の地域の中規模病院です。地域医療に積極的に取り組みつつ、複数科が存在し総合的な専攻医研修が可能な病院です。

専門研修連携施設：札幌医科大学医学部附属病院

指導管理責任者：高野 賢一 教授・診療部長（耳科・口腔咽喉頭）

指導医 ：黒瀬 誠 准教授（口腔咽喉頭・頭頸部）
 大國 毅 講師（鼻科・口腔咽喉頭）
 山本 圭佑（鼻科・口腔咽喉頭・頭頸部）
 角木 拓也（耳科・鼻科・口腔咽喉頭）
 實川 純人（耳科・鼻科・口腔咽喉頭）
 垣内 晃人（口腔咽喉頭・頭頸部）
 矢島 諒人（口腔咽喉頭・頭頸部）
 菊池 めぐみ（耳鼻科一般）

人工内耳、鼓室形成術等をはじめとする耳科手術の件数は全国でもトップクラスです。頭頸部再建手術は皮弁採取から血管吻合まで当科単独で施行可能です。Transoral Robotic Surgery (TORS) や Video-Assisted Neck Surgery (VANS) をはじめとする頸部内視鏡手術も行っています。また頭蓋底を含む鼻内視鏡手術、嚥下改善手術、音声外科など、耳鼻咽喉科領域の手術を幅広く網羅しており、また、鼻アレルギー、めまい平衡、睡眠時無呼吸なども得意分野で、それぞれの領域の専門医が指導します。

専門研修連携施設：国際医療福祉大学 東京ボイスセンター

指導管理責任者：渡邊 雄介 教授（喉頭・音声外科）

耳鼻咽喉科学の中でも音声言語医学を専門とする施設です。声帯ポリープや声帯結節、声帯の形に異常を認めないにもかかわらず音声障害になる機能性音声障害といった病気まで、あらゆる声の障害に対して手術および切らずに治す音声治療までを駆使した幅広い診療を行っています。かかりつけにしている音楽家も多く、プロに起こる音声障害の特殊性をよく理解し、芸術的なセンスも加えてよいパフォーマンスができるように努めています。また、がんやその治療により起こる声帯麻痺（反回神経麻痺）などの音声障害や、飲み込みの障害（嚥下障害）に対しても外科治療やリハビリテーションを行う、音声のエキスパートが集う施設です。

【募定員集：4名】

【研修開始時期と期間】

令和7年4月1日ー令和11年3月31日

研修を行う専門研修連携施設および研修時期・期間は、専攻医毎に適宜変更があります。

【応募方法】

応募資格：

- ・日本国の医師免許証を有する
- ・臨床研修修了登録証を有する
- ・一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会（以下、日耳鼻）の正会員である（令和7年4月1日付で入会予定の者を含む）。

応募期間：令和6年7月22日ー令和7年2月15日

選考方法：書類審査および面接により選考する。面接の日時・場所は別途通知する。

応募書類：願書、希望調査票、履歴書、医師免許証の写し、臨床研修修了証の写し。

【問い合わせ先および提出先】

〒701-0192 岡山県倉敷市松島 577

川崎医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学

電話：086-462-1111(代) Fax：086-464-1197

【プログラム概要】

本プログラムは、川崎医科大学附属病院を基幹施設とし、川崎医科大学総合医療センター、赤穂中央病院、札幌医科大学附属病院、国際医療福祉大学東京ボイスセンターなど、特色ある関連施設と連携しながら体系的な研修を行います。それぞれの施設が有する診療・教育資源を活かし、日本耳鼻咽喉科学会が定める研修到達目標および症例経験基準に基づき、幅広い疾患・手術経験を積み重ねます。

4年間の研修期間中、各関連施設へのローテーションは、個々の研修進捗や適性に応じて調整されます。また、3年目以降には社会人大学院への進学も可能であり、臨床修練と並行して基礎研究・臨床研究に取り組むことで、アカデミックな視野の広がりを得られます。

基幹施設では、毎週の症例検討カンファレンスに加え、頭頸部癌患者に対する放射線科との合同診察（週1回）、合同カンファレンス（月1回）、病理部との病理カンファレンス（月1回）など、学際的な連携を通じて診療の深みを追求します。

さらに、研修期間中には日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会などの学術集会において、少なくとも3回以上の学会発表、および筆頭著者として1編以上の学術論文の執筆・公表が求められます。これらは耳鼻咽喉科専門医資格取得のための必須要件であり、科学的根拠に基づく診療・研究姿勢を養う重要なステップです。日常診療を通じて「科学的思考力」および「生涯学習者としての資質」を磨くことを重視しています。

研修の進捗や症例経験の評価は、各施設の指導医および指導管理責任者が行い、プログラム責任者が最終的な評価を担当します。評価結果や経験症例は、日本耳鼻咽喉科学会が定める方法でオンライン登録され、4年間の研修終了時には全ての領域で研修到達目標を確実に達成します。

【専攻医の週間予定の例（川崎医科大学附属病院）】

月：AM 手術	PM 病棟診察、症例カンファ（放射線科合同カンファ）
火：AM 手術	PM 手術
水：AM 手術カンファ、外来	PM 病棟診察、医局会、予演会
木：AM 手術	PM 手術
金：AM 病棟診察	PM 放射線科合同診察

医導安、全感染対策、医療倫理に関する講習会（1回/年以上）

【経験すべき治療】

術者あるいは助手を務めることができる

耳科手術（鼓膜切開術、鼓膜チューブ留置術、鼓室形成術、人工内耳手術）

鼻科手術（鼻中隔矯正術、下鼻甲介切除術、内視鏡下鼻副鼻腔手術など）

口腔咽喉頭手術（口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術、舌・口腔・咽頭腫瘍摘出術、喉頭微細手術など）

嚥下改善手術、音声外科手術

頭頸部腫瘍手術（頸部リンパ節摘出、頸部部清術、頭頸部腫瘍摘出術など）

【経験すべき検査】

下記の検査を自ら実施し、その結果を解釈できる

聴覚検査：純音聴力検査、語音聴力検査、ティンパノメトリー、自記オーディオメトリー、耳音響放射検査、聴性脳幹反応、幼児聴力検査、中耳機能検査、内耳機能検査(SISI テスト)、補聴器適合検査

平衡機能検査：起立検査、頭位および頭位変換眼振検査、温度眼振検査、視運動性眼振検査、指標追跡検査、重心動揺検査

耳管機能検査

顔面神経予後判定(NET、ENoG)

鼻アレルギー検査(鼻汁好酸球検査)

中耳・鼻咽腔・喉頭内視鏡検査

鼻腔通気度検査

嗅覚検査（静脈性嗅覚検査、基準嗅力検査）

味覚検査（電気味覚検査、濾紙ィデスク法）

頸部超音波検査、穿刺吸引細胞診、針生検

嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査、喉頭ストロボスコピー、音声機能検査、音響分析検査